

泉 佐 野 市

国際空港の玄関都市にふさわしいまちへ

～南海本線泉佐野駅周辺整備～

はじめに

泉佐野市は大阪府の南部、大阪市と和歌山市のほぼ中間の関西国際空港の対岸に位置し、市内には南海本線とJR阪和線の2つの鉄道網、および阪神高速道路などの高速道路を有し、国際空港の補完機能を有する重要な都市となっています。

事業の必要性

南海泉佐野駅は、泉南地域における中心地区の交通ターミナルとして発展してきました。その駅舎は南海電鉄の駅の中でも数少ない地下駅舎の形式であり、エレベータやエスカレータの整備もされておらず、高齢者や障害者などに配慮されたバリアフリーの構造とはなっていませんでした。また、昭和40年の完成後その老朽化も進んでいました。

さらには、鉄道による市街地と道路の分断は、交通渋滞を頻繁に発生させ、また、都市機能の一体化を大きく阻害している要因のひとつとなっていました。

そういった状況の中、関西国

際空港が泉州沖に建設されることとなり、また、あわせて空港の補完施設の整備のため、南大阪湾岸整備事業（りんくうタウン）が決定され、南海線はJRとともに鉄道アクセスとして空港に乗り入れるこ



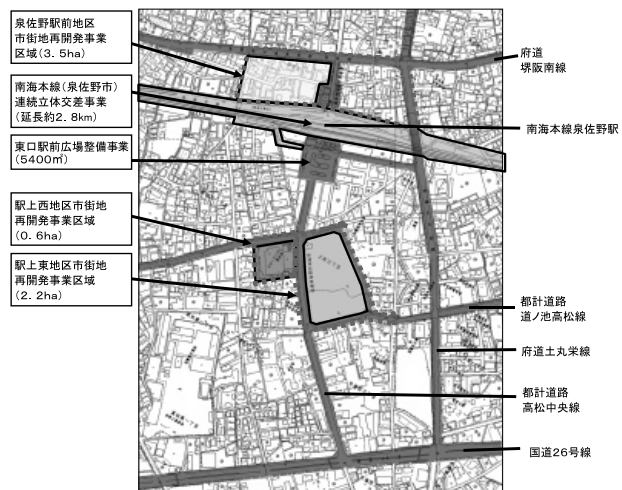
昭和50年代の泉佐野駅東口



現在の泉佐野駅東口

ととなりました。このことにより、列車の本数と市内の交通量が増加することが予測されていました。

以上のことから、昭和60年代に南海本線連続立体交差事業をはじめ、駅上西地区、駅上東地区、駅前地区における市街地再開発事業、東口駅前広場整備事業などの泉佐野駅周辺整備事業が計画され、平成6年の関西国際空港の開港に向けて、事業が進められることとなりました。



泉佐野駅周辺地区概要図

事業の概要

昭和62年に都市計画事業認可された南海本線連続立体交差事業（泉佐野市）は、大阪府が事業主体となり、泉佐野駅を含め、南海本線を泉佐野熊取線（起点）から羽倉崎新安松線（終点）までの約2.8kmを高架化し、この区間で交差する泉佐野王子線から末広公園線まで9本の道路と立体交差させることで、踏切が除却され、都市内交通の円滑化が図られるとともに、分断された市街地の一本化による都市の活性化が進められました。

また、これに併せて、南海電気鉄道(株)施行による

空港連絡鉄道・南海分岐線の泉佐野駅への取りつけ区間を同時施工し、さらに、鉄道高架の両側に側道（幅員6m）を新設、駅へのアクセス道や環境空間が確保されました。



高架下には、現在商業施設など一部がオープンしたところであり、来年4月には2箇所の駐輪場を整備予定としております。

駅前広場は、当初から開設しております4,200㎡の改修工事と、南海本線（泉佐野市）連続立体交差事業関連の1,200㎡を新設し、5,400㎡の新しい駅前広場となり、バリアフリーに配慮した誰もが利用しやすい構造となっています。

また、この駅前広場には公衆トイレが整備され、今年4月に、観光情報センターがオープンし、さらに、駅前交番の開設や10月には市民サービスセンターと消費生活センターもオープン予定であり、安全・安心で快適な交通・環境空間が形成され、駅周辺の整備、周辺地域の活性化の促進が図られています。



駅前広場

観光情報センター



今後の課題

駅周辺はこれまでに、平成4年に駅上西地区、平成17年には駅上東地区のそれぞれ市街地再開発事業が完成し、平成20年度に南海本線の高架化と駅舎をはじめ東口駅前広場整備事業の完成を迎え、多くの人が行き交うようになり、まちの賑わいが益々増してきています。

しかしながら、駅前（西口）地区市街地再開発事業は、景気の低迷が続く中、事業化が困難な状況であり、駅前広場の整備を含めさまざまな手法の検討が必要となっています。

また、今後は、これらの都市基盤を積極的

に活用し、国や地域を越えて人と人の出会いと交流の場を創り、人々の交流を通じて地域の活性化と魅力化を図り、新しい時代にふさわしいまちづくりを展開していくことが必要となっており、また、同時に市民、NPO団体、周辺商店街などと行政がお互いの役割を理解し、協働によるまちづくりを進めていくことが求められています。



駅上西地区

おわりに

本市におきましては、平成21年度を初年度とする第4次総合計画が策定し、ひとを育み、大切に、愛されるようなまちづくりを基本に、関西国際空港等を最大限に活用し、市民をはじめさまざまな「ひと」が集い、そこで多様な交流を創り出すことにより「まち」が輝き、賑わいづくりを進めるとともに、歴史的資源や農林水産業および産業都市等の蓄積をいかし、先進的なまちをめざすこととし、将来像として「賑わいと歴史ある迎都 泉佐野 一ひとを育み ひとにやさしく一」を設定いたしました。

この将来像の実現をめざし今後のまちづくりに積極的に取組んで参ります。